

# 本年度上げ馬神事について

表記の件について、上げ馬神事の奉納団体で構成される御厨総代会よりご奉納頂く旨、報告を頂きました。

本年度上げ馬神事の奉納を決議することについては、昨年の上げ馬神事以降、神事の歴史的経緯を始め祭馬の取扱い、祭事関係者の不適切と思われる行為についてなど、さまざまなご意見を頂いており、多度大社及び御厨総代会では昨年の神事における諸問題の精査と具体的な改善策の策定なしに論じることができないことを深く認識し、今後の上げ馬神事の在りようについて議論を重ね、抜本的な改革を含む改善策を講じることとなりました。

具体的には馬事・馬術に精通した有識者、長年にわたり上げ馬神事をとりまく動物愛護問題に携わる獣医師、馬の生態や動物福祉に関する学識経験者の出席のもと検討会を設けました。

## 検討会参加者の概要

- ・多度大社
- ・御厨総代会

馬事・馬術に精通した有識者として

- ・三重県馬術連盟 理事長 河北浩峰さま
- ・北勢ライディングファーム 代表 中村勇さま
- ・国際馬術連盟公認獣医師 月川大樹さま
- ・JRA日本中央競馬会さま

長年にわたり上げ馬神事をとりまく動物愛護問題に携わってこられた獣医師

- ・「動物との共生を考える連絡会」 代表 青木貢一さま

馬の生態や動物福祉に関する学識経験者

- ・日本獣医生命科学大学獣医学部 特任教授 田中亜紀さま
- ・岐阜大学高等研究院 准教授 高須正規さま
- ・岐阜大学応用生物科学部 准教授 二宮茂さま

その他

- ・三重県医療保健部
- ・三重県教育委員会事務局
- ・桑名市ブランド推進課

上記の皆さまのご参加の下、神事を継続するためには慣習にとらわれることなく、現代の価値観に合わせて大きく変化する必要性に基づき、上げ馬神事から動物虐待となる可能性のある行為を廃絶し、人馬一体となった伝統行事として

社会から受け入れられるよう、神事における馬の取扱い全般について動物福祉の観点から検討を行って頂きました。

また、祭馬をとりまく環境についても検討が重ねられ、以下のような議論がなされました。

### 検討会における検討内容

現在の馬の流通状況（頭数、価格等）から、使用する馬はどうしてもサラブレッドにならざるを得ないため、普通のサラブレッドが無理なくできる内容を考えることの必要性について。

サラブレッドであっても障害の形態や訓練によって跳ぶという行為は不可能ではないが、上げ馬神事で跳ばせている上げ坂の最後のいわゆる壁の構造は難易度が高く、訓練期間が1か月と短い中で、人にも馬にも大変危険である。

いわゆる壁を乗り越える行為を神事成功の目標とすることが、過去にさまざまな改善に取り組んできたにもかかわらず、叩いたり威嚇したりして過剰興奮させようとする行為がゼロにならない要因である。

委員の総意として、動物福祉に配慮した祭に生まれ変わるには、いわゆる壁の撤去が必要不可欠であるとの結論に至りました。

また、どのような構造としても生き物を使用する以上、不慮の事故の可能性はゼロにはならないが、事前に十分な馴致（馬に事前に実際の上げ坂を見せる、歩かせる等）を行うことにより、事故のリスクは極めて低くなると考えられる。

多くの批判を受けた鞭として使用する竹については、馬が走っているときにむやみに叩くのは不必要な行為であるが、神事中の各場面でさまざまな役割があること、和鞍を使用しているため乗り子が足で馬に指示を出すことができないことを考えると、まったく持たないのではなく、衣装の一部として持った上で、叩くのではなく、少し動かして見せることで馬に合図を送る合図鞭としての使用方法を徹底するべきであるとの結論に至りました。

これらの結論を踏まえ、次のような提言を取りまとめて頂きました。

### 検討会の提言

#### ① 馬の選定・管理について

健康上問題がなく、できるだけ祭に向けた性格の馬を調達する。  
神事の前後に必ず獣医師のチェックを受け、体調の確認を行う。

#### ② 竹鞭について

竹鞭については、乗馬等で一般的に使用されているものや、やわらかい素材のものに変更して、合図鞭としてのみ使用する。

### ③ 人の管理について

動物福祉、動物愛護の観点からの共通ルールを定め、各御厨の青年会及び神事関係者に徹底する。

大勢がスタート地点に入らない。馬場に入るのは、必要最小限とし、取り扱いについても十分注意する。

馬の取扱者は飲酒を控え、酔っている者には馬を扱わせない。

### ④ 訓練について

乗り子になる可能性のある者や馬を取扱う青年会等は、和鞍を使いできるだけ早い時期から練習する。

馬については、あらかじめ上げ坂で訓練を行い、馴れさせる（馴致）。

### ⑤ 上げ坂について

壁はなくし、緩やかな上り坂のみとする。

路面を整備し、表面に砂を敷く。

### ⑥ その他

観客の視点に立ち、社会から受け入れられる神事とする必要がある。

改善内容等については、しっかり公表し、新たな意見等が寄せられた場合は、改めて検討し対応していく必要がある。

最終的な方針決定に当たっては、実際に神事を行う世代の意見を十分に聞く必要がある。

多度大社・御厨総代会では提言の取扱いについて協議の結果、提言に基づいた人馬一体の神事として今後も継承すべく、受け入れることを決しました。

今回、さまざまなご意見を伺う機会を得て、動物愛護の精神や動物福祉への配慮に基づいた神事へと躊躇なく改革を進めることの重要性を感じ、人馬一体となり奉納される歴史を受け継ぎつつ、さらなる改善に努めてまいります。

### 提言に基づく本年の改善点について

今回検討会よりお示しを頂きました提言の内容については、すべて受け入れることは先に述べた通りです。現時点において提言に基づく改善点につきましては以下の通りです。

- ・上げ坂については、土壌改良して固めた上で砂を敷く。
- ・坂を上らなかった馬を、正面の階段から境内に上げることは取りやめる。
- ・万が一の負傷に備えて、従来馬繋場に待機していた獣医師を、神事中は上げ坂付近に馬運車とともに待機させる。
- ・神事で馬を取扱う者全員に、今回の改善策や馬の適切な取扱いに関する講習会を受講させ、馬への暴力や威嚇する行為は一切行わないよう厳しく指導す

る。

- ・ルールを守れない者は馬場への立入と馬の取扱いを禁止する。
- ・監視委員については、取り締まるべき行為の認識を統一するため、動画等を用いた研修会を行う。
- ・楠廻りの行事は、馬を走らせず、引馬にて行うこととする。
- ・上げ坂の改良整備については、目下走路となる馬場の整備と上げ坂の整備を併せて検討を重ね、3月下旬を目途に整備を終える予定である。

今回の提言の趣旨を受けて策定される改善事項の肝要は、祭馬の取扱いはもとより、御厨氏子・馬主など神事に携わる全ての者が提言の趣旨を理解した上でこの神事に参加することであろうと存じます。

今後、多度大社・御厨総代会において詳細なルール作りを行いますが、その作成については全て提言の趣旨に沿って、引き続き外部委員の助言を受けながら、改善に努めてまいります。

また、今後策定される上げ馬神事に関わる改善点や変更点については、決定し次第お知らせいたします。